

I 学部の教育目標と教育課程（カリキュラム）

1. 学部の教育目的

看護学部では、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づく深い人間理解の上に、人々の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、人々がその人らしく生活できることを目指した質の高いケアを提供するために、進歩する看護専門分野および関連諸学の知識と技能を統合し、多職種連携・協働してその責務を果たし、国内外の新しい動向にも対応できる看護学分野の指導的人材として労を厭わぬ実践ができる看護専門職者を育成することを目的とします。

2. 学部の教育目標

看護学部看護学科の教育目的を達成するため、以下のように教育目標を掲げます。

- (1) キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を深く理解し、専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につける。
- (2) 看護の対象者の課題を科学的・論理的、総合的に理解し、個別性に応じて支援するための看護学に関連した基礎および専門知識を体系的に修得する。
- (3) 様々な立場や意見、生活背景をもつ他者を理解し、自らの考えや意見を、対象に応じて正確・適切に、伝達・説明できるコミュニケーション力（表現力と語彙）を習得する。
- (4) 課題解決に向けて、主体的・かつ仲間と協働して看護専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、計画的、短期的／長期的に取り組む方法を、論述することができる。
- (5) さまざまな年代の多様な状況にある人々に対して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の知識・理論、情報、技能等を総合的に活用し、人々がその人らしく生活できるようになることを目指した看護を実践することができる。
- (6) 保健医療福祉チームにおける看護の役割と、質の高いケアを提供するための多職種連携の必要性を理解し、協働する方法を修得する。
- (7) 多様な文化や生活習慣、価値観・考え方をもち他者を尊重するための倫理観と、さらに地域社会や国際社会のニーズに応える看護専門職の役割・機能を理解することができる。
- (8) 生涯に亘り看護学・看護実践を追求しようとする意欲と信念・価値観を身につける。

I 学部の教育目標と教育課程（カリキュラム）

3. 学部の学位授与の方針（DP）

看護学部は、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づき、人々の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、人々がその人らしく生活できることを目指した質の高いケアを提供する看護の専門職を育成することを教育目的としています。

卒業においては、教育目的に則した教育課程に学び、以下に掲げることの到達することを目標とし、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与します。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
2. 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
3. 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
4. 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。
5. 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
6. 看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
7. 地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。

なお、養護教諭の教職課程のディプロマ・ポリシーについては、上記に加えて下記の通りとします。

- (1) 教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
- (2) 養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
- (3) 上記(1)と(2)を活用して児童生徒の健康問題に対応できる実践力を身につけている。

I 学部の教育目標と教育課程（カリキュラム）

4. 学部の教育課程の編成・実施方針（CP）

カリキュラム編成方針は、教育理念・目的、学部の教育目的・目標、DPを達成し、看護師を志すものとして身につけるべき態度・知識・技能を修得するために、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と、人間理解を深めるための多様な教養科目を配置した教養基礎領域 2) 人間や環境についての基礎知識を幅広い視野から体系的に修得する専門基礎領域 3) 対象者の成長・発達段階および健康段階、看護の場の特性を踏まえて、対象の理解と看護に関する基本的な知識と理論、技能を修得するための看護専門領域—の3領域から行うものとします。具体的には以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

1. キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を深く理解し、看護専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるために、建学の理念と精神の育成に関わるキリスト教関連科目・自校教育科目を置く。また大学での学びの基礎を築き、幅広い知識を身につけ、多様な文化や価値観・生活背景を理解する人間教育に関わる大学教育導入科目と教養基礎科目を配置する。
2. 看護の対象者の課題を科学的・論理的、総合的に理解し、個別性に応じて支援するために、人が生きる環境や身体・心理面の健康、成長・発達を理解するための専門基礎、看護専門科目を配置する。
3. 様々な立場や意見、生活背景をもつ他者を理解し、自らの考えや意見を、対象に応じて正確・適切に、伝達・説明できるコミュニケーション力と実践力を養うためにキャリア教育科目および専門基礎科目を配置する。
4. さまざまな年代の多様な状況にある人々に対して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の知識・理論、情報、技能等を総合的に活用し、根拠に基づく基礎的な看護技術を駆使し、看護を科学的に実践できる能力を養うために看護専門科目を配置する。
5. 課題解決に向けて、主体的・かつ仲間と協働して看護専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で検討するために、看護専門科目を置く。
6. 看護者の役割と責任を自覚し、保健・医療・福祉の関係職種と協働する能力を養うために、専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 地域および国際的視野で物事をとらえる能力を養うために、国内外の医療、保健、看護を学習する科目や語学、海外研修や国際看護実習を経験する科目を配置する。
8. 生涯に亘り看護学・看護実践を追求しようとする意欲と信念・価値観を養うために、これまでの看護学の学修を統合し、専門職としての自覚を高め、責務を理解し自己の看護観や研究的視点を深める統合科目を配置する。

I 学部の教育目標と教育課程（カリキュラム）

5. カリキュラムの構造

本学部の開設授業科目は、教養基礎領域、専門基礎領域、看護専門領域の3領域に区分されています。これは、本学部の教育目標に沿って、効果的な教育課程の展開を図るためです。

それぞれの意味は次のとおりです。

1) 教養基礎領域

[教養基礎領域]は、本学建学の理念と人間形成に関わる科目、大学生として必要とされる幅広い見識に関わる科目、および本学の教育を受ける上で不可欠な学習の手段となる科目から成っています。すなわち、この領域は本学の教育全体の基礎となる重要な部分ですので、なるべく早い時期に学習し、この領域で学んだことを以降のすべての学習に活かすことができるように配慮されています。

建学の精神

本学の建学精神の根幹である生命の尊厳と隣人愛について、聖書の教えに基づく人間観やキリスト教を基本理念とする『聖隷』の事業の始まりとその歴史から学びます。

自然・人間・社会

看護の対象となる人間とそれを取り囲む社会や自然を、多面的に理解するための科目です。

「基礎講座（スチューデントスキル）」では、本学における初年次教育として、協調性やコミュニケーション技術を修得し、大学で学ぶための人間関係を構築できる基礎力を身につけることを目指します。「基礎演習（スタディスキル）」では、レポート作成やプレゼンテーションなどを通して、大学における学習方法の基礎を身に付けることを目指します。

「情報処理A」「情報処理B」では、コンピュータなどの情報機器やインターネットを活用し、情報を収集・整理・編集・発信するための基礎的な知識や技能を身に付けることを目指します。

「生物学」「生命科学」「物理学」「化学」では、看護学生が看護学の基礎となる科学を学習し、生活に関連深い事柄を科学的視点から観ることを目指します。

「統計学の基礎」では、数学・統計学の基礎となる知識や計算力、思考力を身につけることを目指します。

「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」「健康スポーツ実践」では、運動実践により心身の健康の維持・増進を図り、身体活動を通して他者との連携、協働などができることを目指します。

「キャリアデザイン」では、看護職を目指す自分の現状や社会状況を把握し、より明確に、具体的な進路選択ができることを目指します。

I 学部の教育目標と教育課程（カリキュラム）

国際・地域

語学については、聞く、話す、読む、書く、という基礎的な学習をします。特に必要性の高い英語については、英語コミュニケーション力を磨き、国際人としての英語力を養います。また、臨床看護に活かせる専門英語や英文の看護関係文献を読むための基礎を身に付けることを目指します。

「地域ケア連携の基礎」では、対人援助における多職種の連携、協働の必要性を理解して、保健医療専門職としての視野を広げることを目指します。「地域実践アクティブラーニング」では、「地域ケア連携の基礎」の学びを活かして実際に地域に出て活動を行い、地域の課題解決を目指します。

「ボランティア論」では、ボランティアとは何かを理解するための基礎知識を学び、「ボランティア演習」では、ボランティア活動を実際に体験し、理論に対する理解を深めるとともに、ボランティア活動の精神を学びます。

「大学間交流授業」は、本学を含む周辺の大学から成る静岡県西部高等教育ネットワーク会議主催の共同授業であり、それらの大学教員による授業を各大学の学生や社会人と共に学びます。

2) 専門基礎領域

[専門基礎領域]は、よりよい看護実践のために、人間や環境について幅広い視野から学習し、またそのための手段などを修得することを目的とします。

社会と環境

人間の活動を理解するために、家族、職場などの社会面、および人を取り巻く自然環境の面から学びます。それらを学ぶ手段として「保健統計学」「疫学」「公衆衛生学」「保健医療行政論」などがあります。さらに、看護との連携が不可欠な社会福祉関連の基礎知識を学習します。

こころと発達

こころと発達は密接に関連しています。「生涯発達心理学」では、それをライフサイクルとの関連で学習します。「臨床心理学」「カウンセリング」では、対象と接する際の基礎知識を学習します。

からだの仕組みと働き、疾病の成り立ちと回復

人間の身体構造と機能や健康障害について学ぶ科目です。はじめに【からだの仕組みと働き】について学び、次いで【疾病の成り立ちと回復】について学びます。これらの科目には、「解剖学Ⅰ・Ⅱ」「生理学Ⅰ・Ⅱ」「生化学」「代謝・栄養」「微生物・感染」「病理・病態」「健康障害論Ⅰ・Ⅱ」「薬理・薬剤」「臨床栄養」などがあります。看護学を学んでいくための基礎知識や、病気の治療について理解するための専門的な知識を修得することを目的としています。

I 学部の教育目標と教育課程（カリキュラム）

3) 看護専門領域

[看護専門領域]は、将来専門職者として看護を実践する能力を養うための、基本的な知識、技術、態度の習得を目的としています。

以下の各領域において、成長・発達段階および健康段階、看護の場の特性を踏まえて、看護の対象の理解と看護の方法について学びます。学外の実習では、今までに学んだ知識や技術を看護の活動の場に臨んで統合し実践します。

基礎看護学

「看護とは何か」「看護職は何をするのか」「看護学とはどのような学問なのか」などの原理を探求すると共に、看護職としても基礎を培います。また、看護の対象である人を生活者として捉え、人間の基本的ニーズを充足するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく基本的援助方法を学び修得します。

成人看護学

青年初期から壮年期までの成人期の人々の健康生活を支援するために、成人期に多い健康障害をとりあげ、健康に影響を及ぼす諸要因をふまえながら、健康問題をもつ人々に対する看護実践に必要な基礎的知識・技術および態度を学習します。

老年看護学

老年期にある人々の加齢・老化を理解し、加齢に伴い日常生活機能が低下した高齢者のQOL向上を支援するための知識・技術のありようを理解します。それらを通して、老年期に特徴的な健康障害が日常生活に及ぼす影響を考慮した看護の知識・技術・態度を学習します。さらに、老年期の生活を支える社会システムや介護保険制度、生活の場としての施設ケアや社会資源等についても学習します。

母性看護学

女性のライフスタイルや女性を取り巻く環境や社会、母性や父性に関する理解を深め、女性の健康および子どもの誕生によって新たな家族を形成する母子とその家族を支援するための看護援助や、人間の性と生殖・出産・子育てに関する援助に必要な基礎的知識と看護実践に必要な技術・態度を学習します。

小児看護学

小児の特性、成長・発達の概要と評価方法を理解し、成長・発達や健康の保持増進のための看護援助や、健康障害または発達障害をもつ小児とその家族の看護を実践するために必要な基礎的知識と看護実践に必要な技術・態度を学習します。

精神看護学

健康な社会生活を営むための精神活動を支援できるようになるために、精神保健に関する学習を基盤として、精神的な課題を抱える人々への看護実践の方法や、精神保健指導及び生活支援に必要な知識と方法および態度を学習します。

I 学部の教育目標と教育課程（カリキュラム）

在宅看護学

疾病や障害を持ちながらも在宅での療養を望む人やその家族に対して、健康レベルの維持と改善、生活の自立、QOLの向上を目的として行われる看護援助に必要な知識・技術・態度を学習します。

看護の統合

「地域包括ケア看護論」「看護倫理」「看護管理論Ⅰ・Ⅱ」「災害看護論」などを学び、より広い視野から今まで学習してきた看護を再考し、専門職としての自覚を高めると同時に責務について学習します。

最終学年では、「看護統合セミナー」「看護研究Ⅱ」を通して、これまでの看護学の学習を統合し、自己の看護観や研究的態度を養うための学習をします。「地域ケア連携演習」では、これまでの学習や経験を再確認し活用し、他学部学生とともに事例検討を行い、対人関係における専門職連携・協働の実際を体験します。「国際看護実習」では、国際的視野に基づいた看護を展開できるよう、海外交流協定校での実習を通して学びを深めます。

臨地実習

地域・臨床などの実際の中で、人々の健康の保持増進・健康問題を解決するための看護を実践します。新生児期、小児、成人・老人など各発達段階の人々、あるいは健康な人、妊娠期・分娩期にある女性・さまざまな健康障害をもつ人に直接関わり、対象を総合的に理解して看護を実践するための基礎的な知識・技術・態度を学習します。

さらに、最終学年では、選択した看護学領域における統合実習を通して、既習の知識・技術を統合しながら看護の実践力を高めるための学習をします。

公衆衛生看護学

公衆衛生看護は、疾病構造や社会・経済・文化的変化に伴い地域住民の多様なニーズに対応した柔軟性を要する活動です。その基本となる理念、活動の基盤となる理論、関連する法律、歴史を理解し、対象である個人・家族・集団・組織を含む地域社会及び地域を構成する人々の健康増進・改善を目指して、看護を展開する方法を学習します。また、公衆衛生看護活動の場（行政機関、産業保健、学校保健）の特性と支援方法の学びを深めます。

教職に関する科目

「教職に関する科目」は、養護教諭1種免許取得を希望する学生が履修します。「教職概論」「教育課程・方法論」「教育心理学」「教育相談の理論と方法」などの科目では、養護教諭（学校教員）になるために必要な、教育に関する基礎的な理論・知識を広く学習します。また、実際に学校現場で体験する「養護実習」や「学校体験活動」、4年次に教職課程の総まとめとして行う「教職実践演習」などの科目では実践力を身につけます。

I 学部の教育目標と教育課程（カリキュラム）

6. 教育課程

| | 1年次 | | 2年次 | |
|----------------------------|---|-----------------------|--------------------|------------------------------|
| | 第1 Semester | 第2 Semester | 第3 Semester | 第4 Semester |
| 教養基礎領域 | | | | |
| 建学の精神 自然・人間・社会 国際・地域 | 【建学の精神】 聖隷の理念と歴史、キリスト教概論 、キリスト教人間論、キリスト教の歴史、キリスト教倫理 【自然・人間・社会】 基礎講座、基礎演習、キャリアデザイン 、哲学、文学、心理学、倫理学、女性学 生活福祉文化論、レクリエーション概論、音楽、健康スポーツ論、健康スポーツ実践 スポーツⅠ、スポーツⅡ、法学、日本国憲法、経済学、教育学、社会学、現代コミュニティ論 生物学、生命科学、教育原理、教育心理学、教育制度論、物理学、化学、統計学の基礎 医療法学、日本語表現法、情報処理A、情報処理B | | | |
| 専門基礎領域 | | | | |
| 社会と環境 | | 社会福祉概論 家族関係論 | 公衆衛生学 養護概説 | 保健統計学 保健医療行政論 |
| こころと 発達 | 生涯発達心理学 | | 臨床心理学 | カウンセリング |
| 体の仕組み と働き | 解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ | 解剖学Ⅱ 生理学Ⅱ 代謝・栄養 | 生化学 | |
| 疾病の成り 立ちと回復 | | 微生物・感染 | 病理・病態 健康障害論Ⅰ | 健康障害論Ⅱ 薬理・薬剤 臨床栄養 |
| 看護専門領域 | | | | |
| 基礎看護学 | 看護学原論Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ | 看護学原論Ⅱ 基礎看護技術Ⅱ | 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ | 基礎看護技術Ⅴ |
| 成人看護学 | | | 成人看護学概論 | 成人看護援助論Ⅰ |
| 老年看護学 | | | 老年看護学概論 | 老年看護援助論Ⅰ |
| 母性看護学 | | | 母性看護学概論 | 母性看護援助論Ⅰ |
| 小児看護学 | | | 小児看護学概論 | 小児看護援助論Ⅰ |
| 精神看護学 | | | 精神看護学概論 | 精神看護援助論Ⅰ |
| 在宅看護学 | | | | 在宅看護学概論 |
| 看護の統合 | | | | 地域包括ケア看護論 国際看護論 国際看護研修 |
| 臨地実習 | | 地域看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ | 基礎看護学実習Ⅱ | 老年看護学実習Ⅰ |
| 公衆衛生 看護学 | | 公衆衛生看護学概論 | 公衆衛生看護技術論 | 公衆衛生看護技術論演習 |
| 教職に関する科目 | | | | |
| | 教職概論 | 学校保健 | 特別支援教育概論 学校体験活動 | 教育課程・方法論 教育相談の理論と方法 |

I 学部の教育目標と教育課程（カリキュラム）

| 3年次 | | 4年次 | | |
|---|--|---|-------------------------|----------------|
| 第5 Semester | 第6 Semester | 第7 Semester | 第8 Semester | |
| 【国際・地域】基礎講座、基礎演習、英語Ⅰ、英語Ⅱ、地域ケア連携の基礎、英語Ⅲ（看護英語）、英語Ⅳ 英語Ⅴ、中国語、外国語、海外研修、ブラジル文化と言語、現代の国際社会、文化人類学 国際支援入門、国際支援アクティブラーニングⅠ、国際支援アクティブラーニングⅡ 地域実践アクティブラーニングⅠ、地域実践アクティブラーニングⅡ 地域実践アクティブラーニングⅢ、ボランティア論、ボランティア演習、大学間交流授業 | | | | 教養基礎領域 |
| | | | | 専門基礎領域 |
| 疫学 | | | | 社会と環境 |
| | | | | こころと 発達 |
| | | | | 体の仕組み と働き |
| | | | | 疾病の成り 立ちと回復 |
| | | | | 看護専門領域 |
| | | | | 基礎看護学 |
| 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護援助論演習 | | | | 成人看護学 |
| 老年看護援助論Ⅱ | | | | 老年看護学 |
| 母性看護援助論Ⅱ | | | | 母性看護学 |
| 小児看護援助論Ⅱ | | | | 小児看護学 |
| 精神看護援助論Ⅱ | | | | 精神看護学 |
| 在宅看護援助論 | | | | 在宅看護学 |
| 看護管理論Ⅰ 看護研究Ⅰ | | 看護統合セミナー 看護研究Ⅱ 地域ケア連携演習 国際看護実習 | 看護倫理 災害看護論 看護管理論Ⅱ | 看護の統合 |
| | 急性期看護学実習 慢性看護学実習 老年看護学実習Ⅱ 母性看護学実習 | 小児看護学実習 精神看護学実習 在宅看護学実習 統合実習 | | 臨地実習 |
| 公衆衛生看護活動論 | 公衆衛生看護活動論演習 | 公衆衛生看護学実習 | 公衆衛生看護総合演習 公衆衛生看護管理論 | 公衆衛生 看護学 |
| | | | | 教職に関する科目 |
| 健康相談活動 道徳・特別活動・総合的な 学習の時間 生徒指導の理論と方法 | | 養護実習事前事後指導 養護実習Ⅰ 養護実習Ⅱ | 教職実践演習（養護教諭） | |

〔太字は必修科目〕

I 学部の教育目標と教育課程（カリキュラム）

教育課程 [2019年度入学生]

| 区分 | 授業科目 （※：共通科目） | 保健 師 | 養教 1種 | 単位数 | | 時間 数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 卒業に必要な 単位数 |
|------------------|-------------------|---------|----------|-----|----|---------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|-----------|---|
| | | | | 必修 | 選択 | | 1セ | 2セ | 3セ | 4セ | 5セ | 6セ | 7セ | 8セ | |
| 建学の 精神 | 聖隷の理念と歴史 ※ | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | | | | | | | 必修10単位 選択15単位以上 |
| | キリスト教概論 ※ | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | | | | | | | |
| | キリスト教人間論 ※ | | | | 1 | 15 | ○ | ○ | | | | | | | |
| | キリスト教の歴史 ※ | | | | 1 | 15 | | | ○ | ○ | | | | | |
| | キリスト教倫理 ※ | | | | 1 | 15 | | | | | ○ | ○ | | | |
| 自然・ 人間・ 社会 | 哲学 ※ | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | 注1) 「心理学」と「教 育心理学」の2科 目を履修するこ とはできません。 注2) 「教育学」と「教 育原理」の2科目 を履修すること はできません。 |
| | 文学 ※ | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| | 心理学 ※ | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| | 倫理学 ※ | | | 2 | | 30 | | ○ | | △ | | | | | |
| | 女性学 ※ | | | 2 | | 30 | ○ | | △ | | | | | | |
| | 生活福祉文化論 ※ | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| | レクリエーション概論 ※ | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| | 音楽 ※ | | | 1 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| | 健康スポーツ論 ※ | | ◇ | | 1 | 15 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| | 健康スポーツ実践 ※ | | ◇ | | 1 | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| | スポーツⅠ ※ | | ◇ | | 1 | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| | スポーツⅡ ※ | | ◇ | | 1 | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| | 法学 ※ | | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | |
| | 日本国憲法 ※ | | ◆ | | 2 | | 30 | | ○ | | △ | | | | |
| | 経済学 ※ | | | | 2 | | 30 | | ○ | | △ | | | | |
| | 教育学 ※ | | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | |
| | 社会学 ※ | | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | |
| | 現代コミュニティ論 ※ | | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | |
| | 生物学 ※ | | | | 2 | | 30 | ○ | | △ | | | | | |
| | 生命科学 | | | | 2 | | 30 | | ○ | | | | | | |
| | 教育原理 | | ◆ | | 2 | | 30 | | ○ | | | | | | |
| | 教育心理学 | | ◆ | | 2 | | 30 | | ○ | | | | | | |
| | 教育制度論 | | ◆ | | 2 | | 30 | | | ○ | | | | | |
| | 物理学 | | | | 2 | | 30 | ○ | | | | | | | |
| | 化学 | | | | 2 | | 30 | ○ | | | | | | | |
| | 統計学の基礎 | | | | 2 | | 30 | | ○ | | | | | | |
| | 医療法学 | | | | 1 | | 15 | | | | ○ | | | △ | |
| | 基礎講座 | | | | 1 | | 15 | ○ | | | | | | | |
| 基礎演習 | | | | 1 | | 30 | ○ | | | | | | | | |
| 日本語表現法 ※ | | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| 情報処理A ※ | | ◆ | | 1 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| 情報処理B ※ | | ◆ | | 1 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| キャリアデザイン ※ | | | | 1 | | 15 | | | | | ○ | | | | |
| 国際・ 地域 | 英語Ⅰ ※ | | | 1 | | 30 | ○ | | | | | | | 1単位 以上 | |
| | 英語Ⅱ ※ | | | 1 | | 30 | | ○ | | | | | | | |
| | 英語Ⅲ（看護英語） | | | 1 | | 30 | | | ○ | | | | | | |
| | 英語Ⅳ ※ | | | 1 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | 英語Ⅴ ※ | | | 1 | | 30 | | | | | ○ | | | | |
| | 中国語 ※ | | | 1 | | 30 | | | ○ | ○ | | | | | |
| | 外国語 ※ | | | 1 | | 30 | ○ | ○ | | | | | | | |
| | 海外研修 ※ | | | 1 | | 30 | ○ | ○ | | | | | | | |
| | ブラジル文化と言語 ※ | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| | 現代の国際社会 ※ | | | 2 | | 30 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | |
| | 文化人類学 ※ | | | 2 | | 30 | ○ | | △ | | | | | | |
| | 国際支援入門 ※ | | | 1 | | 15 | ○ | | △ | | | | | | |
| | 国際支援アクティブラーニングⅠ ※ | | | 1 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | 国際支援アクティブラーニングⅡ ※ | | | 1 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | 地域ケア連携の基礎 ※ | | | 1 | | 15 | ○ | | | | | | | | |
| | 地域実践アクティブラーニングⅠ ※ | | | 1 | | 30 | | | ○ | | ○ | | | | |
| | 地域実践アクティブラーニングⅡ ※ | | | 1 | | 30 | | | | ○ | | ○ | | | |
| | 地域実践アクティブラーニングⅢ ※ | | | 1 | | 30 | | | | | | ○ | | | |
| | ボランティア論 ※ | | | 1 | | 15 | ○ | | △ | | | | | | |
| | ボランティア演習 ※ | | | 1 | | 30 | | | ○ | | △ | | | | |
| | 大学間交流授業 ※ | | | 2 | | 30 | | | ○ | | | | | | |

・ 選択科目のうち、資格又は免許状の取得に必要な科目【◆…必須、◇…選択】
 ・ 授業科目の開講セメスター【○…履修可、△…時間割によっては履修可】

I 学部の教育目標と教育課程（カリキュラム）

| 区分 | 授業科目 〔※：共通科目〕 | 保健 師 | 養教 1種 | 単位数 | | 時間 数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 卒業に必要な 単位数 |
|---------|------------------|-----------|----------|-----|----|---------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-------------------|
| | | | | 必修 | 選択 | | 1セ | 2セ | 3セ | 4セ | 5セ | 6セ | 7セ | 8セ | |
| 専門基礎領域 | 社会と環境 | 保健統計学 | | | 2 | | | | | ○ | | | | | 必修26単位 選択2単位以上 |
| | | 疫学 | | | 2 | | | | | | ○ | | | | |
| | | 公衆衛生学 | | | 2 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 保健医療行政論 | | | 2 | | | | | | ○ | | | | |
| | | 社会福祉概論 | | | 2 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 家族関係論 | | | | 2 | 30 | | ○ | | | | | | |
| | | 養護概説 | | ◆ | | 2 | 30 | | | ○ | | | | | |
| | こころと発達 | 生涯発達心理学 | | | 2 | | 30 | ○ | | | | | | | |
| | | 臨床心理学 | | | | 2 | 30 | | | ○ | | | | | |
| | | カウンセリング | | | | 2 | 30 | | | | ○ | | | | |
| | 体の仕組みと働き | 解剖学Ⅰ | | | 2 | | 30 | ○ | | | | | | | |
| | | 解剖学Ⅱ | | | 1 | | 30 | | ○ | | | | | | |
| | | 生理学Ⅰ | | | 2 | | 30 | ○ | | | | | | | |
| | | 生理学Ⅱ | | | 1 | | 30 | | ○ | | | | | | |
| | | 生化学 | | | 1 | | 30 | | | ○ | | | | | |
| | 疾病の成り立ちと回復 | 代謝・栄養 | | | 1 | | 30 | | ○ | | | | | | |
| | | 微生物・感染 | | | 1 | | 30 | | ○ | | | | | | |
| | | 病理・病態 | | | 1 | | 30 | | | ○ | | | | | |
| | | 健康障害論Ⅰ | | | 1 | | 30 | | | ○ | | | | | |
| | | 健康障害論Ⅱ | | | 1 | | 30 | | | | ○ | | | | |
| | | 薬理・薬剤 | | | 1 | | 30 | | | | ○ | | | | |
| | 看護専門領域 | 基礎看護学 | 臨床栄養 | | | 1 | 30 | | | | ○ | | | | |
| | | | 看護学原論Ⅰ | | | 2 | 30 | ○ | | | | | | | |
| | | | 看護学原論Ⅱ | | | 1 | 15 | | ○ | | | | | | |
| | | | 基礎看護技術Ⅰ | | | 1 | 30 | ○ | | | | | | | |
| | | | 基礎看護技術Ⅱ | | | 2 | 60 | | ○ | | | | | | |
| 基礎看護技術Ⅲ | | | | | 1 | 30 | | | ○ | | | | | | |
| 基礎看護技術Ⅳ | | | | | 1 | 30 | | | | ○ | | | | | |
| 成人看護学 | | 基礎看護技術Ⅴ | | | 2 | 60 | | | | ○ | | | | | |
| | | 成人看護学概論 | | | 2 | 30 | | | ○ | | | | | | |
| | | 成人看護援助論Ⅰ | | | 1 | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | | 成人看護援助論Ⅱ | | | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | |
| 老年看護学 | | 成人看護援助論Ⅲ | | | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | |
| | | 成人看護援助論演習 | | | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | |
| | | 老年看護学概論 | | | 2 | 30 | | | ○ | | | | | | |
| 母性看護学 | | 老年看護援助論Ⅰ | | | 1 | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | | 老年看護援助論Ⅱ | | | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | |
| | | 母性看護学概論 | | | 2 | 30 | | | ○ | | | | | | |
| 小児看護学 | | 母性看護援助論Ⅰ | | | 1 | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | | 母性看護援助論Ⅱ | | | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | |
| | | 小児看護学概論 | | | 2 | 30 | | | ○ | | | | | | |
| 精神看護学 | | 小児看護援助論Ⅰ | | | 1 | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | | 小児看護援助論Ⅱ | | | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | |
| | | 精神看護学概論 | | | 2 | 30 | | | ○ | | | | | | |
| 在宅看護学 | | 精神看護援助論Ⅰ | | | 1 | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | | 精神看護援助論Ⅱ | | | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | |
| 看護の統合 | | 在宅看護学 | | | 2 | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | 在宅看護援助論 | | | 2 | 30 | | | | | ○ | | | | | |
| | 地域包括ケア看護論 | | | 2 | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | 看護倫理 | | | 1 | 15 | | | | | | ○ | | | | |
| | 看護管理論Ⅰ | | | 1 | 15 | | | | | ○ | | | | | |
| | 看護管理論Ⅱ | | | | 1 | 15 | | | | | ○ | | | | |
| | 国際看護論 | | | | 1 | 15 | | | ○ | | | △ | | | |
| | 災害看護論 | | | 1 | 15 | | | | | | | ○ | | | |
| | 看護研究Ⅰ | | | 1 | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | 看護研究Ⅱ | | | | 1 | 30 | | | | | ○ | ○ | | | |
| | 看護統合セミナー | | | 1 | 30 | | | | | ○ | ○ | | | | |
| | 地域ケア連携演習 | ※ | | | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | |
| | 国際看護研修 | | | | 1 | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | 国際看護実習 | | | | 2 | 90 | | | | | ○ | | | | |

- ・ 選択科目のうち、資格又は免許状の取得に必要な科目〔◆…必須、◇…選択〕
- ・ 授業科目の開講セメスター〔○…履修可、△…時間割によっては履修可〕

I 学部の教育目標と教育課程（カリキュラム）

| 区分 | 授業科目 〔※：共通科目〕 | 保健 師 | 養教 1種 | 単位数 | | 時間 数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 卒業に必要な 単位数 |
|-----------|-------------------|---------|----------|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------------------|
| | | | | 必修 | 選択 | | 1セメ | 2セメ | 3セメ | 4セメ | 5セメ | 6セメ | 7セメ | 8セメ | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 看護専門領域 | 地域看護学実習 | | | 1 | | 45 | | ○ | | | | | | | 必修24単位 |
| | 基礎看護学実習Ⅰ | | | 1 | | 45 | | ○ | | | | | | | |
| | 基礎看護学実習Ⅱ | | | 2 | | 90 | | | ○ | | | | | | |
| | 急性期看護学実習 | | | 3 | | 135 | | | | | | ○ | ○ | | |
| | 慢性看護学実習 | | | 3 | | 135 | | | | | | ○ | ○ | | |
| | 老年看護学実習Ⅰ | | | 1 | | 45 | | | | ○ | | | | | |
| | 老年看護学実習Ⅱ | | | 3 | | 135 | | | | | | ○ | ○ | | |
| | 母性看護学実習 | | | 2 | | 90 | | | | | | ○ | ○ | | |
| | 小児看護学実習 | | | 2 | | 90 | | | | | | ○ | ○ | | |
| | 精神看護学実習 | | | 2 | | 90 | | | | | | ○ | ○ | | |
| | 在宅看護学実習 | | | 2 | | 90 | | | | | | ○ | ○ | | |
| | 統合実習 | | | 2 | | 90 | | | | | | | ○ | | |
| | 公衆衛生看護学概論 | | | 2 | | 30 | | ○ | | | | | | | 必修2単位 |
| | 公衆衛生看護技術論 | ◆ | | 2 | | 30 | | | ○ | | | | | | |
| | 公衆衛生看護技術論演習 | ◆ | | 1 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | 公衆衛生看護活動論 | ◆ | | 2 | | 30 | | | | | ○ | | | | |
| | 公衆衛生看護活動論演習 | ◆ | | 1 | | 30 | | | | | | ○ | | | |
| | 公衆衛生看護総合演習 | ◆ | | 1 | | 30 | | | | | | | | ○ | |
| | 公衆衛生看護管理論 | ◆ | | 1 | | 15 | | | | | | | | ○ | |
| 公衆衛生看護学実習 | ◆ | | 4 | | 180 | | | | | | | | ○ | | |
| 教職に関する科目 | 教職概論 | | ◆ | 2 | | 30 | ○ | | | | | | | | 124単位 (必修105単位) |
| | 学校保健 | | ◆ | 2 | | 30 | | ○ | | | | | | | |
| | 健康相談活動 | | ◆ | 2 | | 30 | | | | | ○ | | | | |
| | 特別支援教育概論 | | ◆ | 1 | | 15 | | | ○ | | | | | | |
| | 道徳・特別活動・総合的な学習の時間 | | ◆ | 2 | | 30 | | | | | ○ | | | | |
| | 教育課程・方法論 | | ◆ | 2 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | 生徒指導の理論と方法 | | ◆ | 1 | | 15 | | | | | ○ | | | | |
| | 教育相談の理論と方法 | | ◆ | 2 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | 学校体験活動 | | ◆ | 1 | | 15 | | | ○ | | | | | | |
| | 養護実習事前事後指導 | | ◆ | 1 | | 15 | | | | | | ○ | ○ | | |
| | 養護実習Ⅰ | | ◆ | 1 | | 45 | | | | | | ○ | | | |
| | 養護実習Ⅱ | | ◆ | 3 | | 135 | | | | | | ○ | | | |
| | 教職実践演習（養護教諭） | | ◆ | 2 | | 30 | | | | | | | ○ | | |
| 卒業に必要な単位数 | | | | | | | | | | | | | | | 124単位 (必修105単位) |

- ・ 選択科目のうち、資格又は免許状の取得に必要な科目〔◆…必須、◇…選択〕
- ・ 授業科目の開講セメスター〔○…履修可、△…時間割によっては履修可〕

Ⅱ 履修の方法

1. 卒業認定に 必要な単位

本学の卒業認定に必要な単位は124単位以上（学則第39条第2項参照）と定められており、その内訳は次のとおりです（学則 別表1-1参照）。

(1) 教養基礎領域科目

教養基礎領域は、[建学の精神]・[自然・人間・社会]・[国際・地域]の3分野に分かれています。卒業までに、25単位以上（必修10単位）の修得が必要です。なおこの領域の大部分の科目は、「共通科目」となっており、社会福祉学部、リハビリテーション学部の学生も履修が可能となっています。「共通科目」の中には春・秋 Semester 各々に開講される科目もありますが、学年進行により、開講されていても履修が困難な場合もあります。必要な修得単位数は次のとおりです。

○建学の精神

・聖隷の精神とキリスト教

「聖隷の理念と歴史」「キリスト教概論」（各2単位）は必修科目です。選択科目の「キリスト教人間論」「キリスト教の歴史」「キリスト教倫理」（各1単位）は、本学の建学の精神に関わる科目ですので、可能な限り履修することが望まれます。

○自然・人間・社会

「基礎講座」「基礎演習」「キャリアデザイン」（各1単位）は必修科目です。

「生物学」「物理学」「化学」「統計学の基礎」は、専門基礎領域、看護専門領域の土台となる重要な科目です。可能な限り履修することが望まれます。

○国際・地域

「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「地域ケア連携の基礎」（各1単位）は必修科目です。また、「英語Ⅲ（看護英語）」「英語Ⅳ」「英語Ⅴ」「中国語」「外国語」「海外研修」（各1単位）の中から1単位以上を修得する必要があります。外国語はこれからの時代に重要な科目です。可能な限り履修し、語学力を養っていきましょう。

(2) 専門基礎領域科目

専門基礎領域科目は、卒業までに28単位以上（必修26単位）の修得が必要です。

対象を、環境を含め全人的に捉えることが看護の基礎になります。看護専門領域と関連性の深い科目が配置されていますので、履修単位数を増やすようにしてください。

Ⅱ 履修の方法

(3) 看護専門領域科目

看護専門領域科目は、卒業までに 71 単位以上（必修 69 単位）の修得が必要です。看護の統合のうち「地域包括ケア看護論」（2 単位）「看護倫理」「看護管理論Ⅰ」「災害看護論」「看護研究Ⅰ」「看護統合セミナー」（各 1 単位）は必修です。

さらに「看護管理論Ⅱ」「国際看護論」「看護研究Ⅱ」「地域ケア連携演習」「国際看護研修」（各 1 単位）「国際看護実習」（2 単位）の中から 2 単位以上の修得が必要です。卒業後看護師として臨床で働く人、保健師として活躍したい人、大学院を目指したい人、国際的な場で活躍したい人など、それぞれの目的にそって選択するとよいでしょう。多くの科目が 4 年次開講ですので、3 年次終了までに履修計画を考えておきましょう。

2. 履修の要点

以下に履修方法の概要を示しますが、詳しいことは学年始めの履修ガイダンスにおいて説明します。当日は履修についての注意・説明があり、関連資料等が配付されますから必ず出席してください。履修について不明な点や迷った場合には、教務事務センター、アドバイザーなどに相談にいきましょう。

(1) 履修科目の学年別進行

履修は、原則として、看護学部教育課程に示した進度にそって行います。

(2) 選択科目の履修

選択科目については、可能な範囲内で学年を越えて履修することができます。教養基礎領域科目と専門基礎領域科目の一部は、共通科目となっています。しかし、学年進行により、開講されていても受講が困難となる科目もあります。履修時期については、看護学部教育課程に示した進度を参考にしてください。選択科目は、主として看護に必要な人間理解を中心とした科目です。選択科目の履修については、在学中の活動や卒業後の進路、興味・関心を考慮してできるだけ多くの科目を修得することが望まれます。苦手としている科目に挑戦して履修するのもよいでしょう。

Ⅱ 履修の方法

3. 臨地実習を履修するための前提科目

臨地実習の履修にあたっては、それぞれの実習領域に関連のある看護専門領域科目の単位を修得していることが前提となります。また、健康診断を受診しなければ、臨地実習を履修することができません。

臨地実習前提科目について

| 臨地実習科目名 | 臨地実習前提科目 | | |
|---------------------|---|---|--|
| 地域看護学実習 | 前提科目はありません | | |
| 基礎看護学実習Ⅰ | 看護学原論Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ | | |
| 基礎看護学実習Ⅱ | 看護学原論Ⅱ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ | | |
| 老年看護学実習Ⅰ | 前提科目はありません | | |
| 急性期看護学実習 慢性看護学実習 | 成人看護学概論 成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護援助論演習 | 看護学原論Ⅰ 看護学原論Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ 基礎看護技術Ⅴ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ | |
| 老年看護学実習Ⅱ | 老年看護学概論 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ | | |
| 母性看護学実習 | 母性看護学概論 母性看護援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ | | |
| 小児看護学実習 | 小児看護学概論 小児看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅱ | | |
| 精神看護学実習 | 精神看護学概論 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ | | |
| 在宅看護学実習 | 在宅看護学概論 在宅看護援助論 | | |
| 統合実習 | 原則として、地域看護学実習、急性期看護学実習、慢性看護学実習、老年看護学実習Ⅱ、母性看護学実習、小児看護学実習、精神看護学実習、在宅看護学実習の履修を終了していること | | |

Ⅲ 保健師課程

在学中に所定の保健師国家試験受験資格に必要な単位を修得することにより、保健師国家試験受験資格を取得することができます。

保健師課程では、保健師能力の育成や職業アイデンティティの育成など、資格取得にかかる教育のさらなる充実をはかっています。

1. 保健師国家試験受験資格に必要な科目の選択

保健師国家試験受験資格取得のためには、看護師教育課程の卒業に必要な単位数（124 単位）に加えて、以下の科目を選択履修すること（12 単位の修得）が必要です。

「将来保健師になる強い意志、保健師資格を取得しその資格を活かす強い意志」を持って学習する必要があります。

公衆衛生看護学では、1 年次から「公衆衛生看護学概論」「地域看護学実習」を看護師国家試験受験資格のための必修科目として、健康の保持増進や地域の特性を把握し、生活する人々の健康支援などの看護実践能力向上にも努めています。

保健師課程では「公衆衛生看護学概論」を基盤として、「公衆衛生看護技術論」「公衆衛生看護技術論演習」で、個人・家族・集団・地域の健康問題解決に必要な保健師の援助技術を学んでいきます。そして「公衆衛生看護活動論」「公衆衛生看護活動論演習」では、地域の健康課題の明確化や解決策の計画を立案する能力を強化していきます。「公衆衛生看護総合演習」では、活動の評価、改善のための新たな事業化や施策化のプロセスを学習します。

また「災害看護論」を履修することで災害時の知識・技術を学び、「公衆衛生看護管理論」では、地域の健康危機管理と公衆衛生看護管理を学習します。

臨地看護学実習は、学生全員が履修する「地域看護学実習」1 単位を基盤に、保健師課程の「公衆衛生看護学実習」4 単位を選択し、保健師としての実践力の強化を目指します。

2 年次（第 3 セメスター）から保健師課程の選択科目の履修が始まります。

*2 年次

「公衆衛生看護技術論」（2 単位）

「公衆衛生看護技術論演習」（1 単位）

*3 年次

「公衆衛生看護活動論」（2 単位）

「公衆衛生看護活動論演習」（1 単位）

*4 年次

「公衆衛生看護学実習」（4 単位）

「公衆衛生看護総合演習」（1 単位）

「公衆衛生看護管理論」（1 単位）

Ⅲ 保健師課程

2. 保健師国家試験受験資格取得に関する履修の流れ

1. 学年進行にあわせ、保健師課程のガイダンス及び個別面接を行います。
 - ①入学時ガイダンス：入学時と1年次に行うガイダンスは、保健師課程の概要を説明し、皆さんが保健師課程の特徴をよく理解した上で、選択履修の検討ができるようにするために行います。内容は、保健師課程選択制の経緯、本学の保健師課程の特徴、保健師課程の科目進度と概略、選択条件や一定の学力の必要性についての説明です。
 - ②1年次（12月ごろ；全学生対象）：保健師の活動、保健師課程の科目進度と具体的な内容、選択の条件、保健師国家試験、保健師の就職状況等について説明します。
 - ③2年次（4月；全学生対象）：第3セメスターから始まる保健師課程選択科目の具体的な内容と学習方法について説明します。
 - ④2年次（2月；保健師課程選択科目履修者対象）：第5セメスターからの保健師課程選択科目の内容と進度、公衆衛生看護学実習（4年次4単位）の具体的な内容を説明し、実習の調査を行います。
 - ⑤3年次（保健師課程選択科目履修者対象）：これからの保健師課程選択科目の具体的な内容、事前学修、国家試験対策、就職対策について説明します。
2. 保健師課程の履修に関する個別相談を、必要時に行います。
 - * 保健師課程を選択する学生は、各年次において開講される必修科目（資格又は免許状の取得に必要な科目も含む）について、年次ごとに未修得科目がないことが履修条件になります。
 - * 公衆衛生看護学実習の履修には、別途実習交通費が必要となります。
 - * 2年次以降、保健師課程と教職課程（養護教諭1種免許状の取得）の両方の課程を選択することはできません。

IV 教職課程

在学中に所定の単位を修得することにより養護教諭1種免許状及び2種免許状を取得することができます。

1. 養護教諭1種免許状の取得に必要な科目

養護教諭1種免許状取得のためには、以下の科目を履修・修得する必要があります。卒業に必要な単位数(124単位)に加えて、教職に関する科目22単位の修得が必要です。1年次春 semester から計画的に履修を進めてください。「将来養護教諭になることをめざす強い意志」を持って学習する必要があります。

1年次・2年次

【教養基礎領域（教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目）】

〔日本国憲法〕 日本国憲法 2単位

〔体育〕 スポーツⅠ・スポーツⅡ・健康スポーツ実践・健康スポーツ論の4科目より
2科目2単位以上

〔外国語コミュニケーション〕 英語Ⅰ・英語Ⅱ 2単位

〔情報機器の操作〕 情報処理A・情報処理B 2単位

【教養基礎領域】

(1年次) 教育原理 2単位、教育心理学 2単位

(2年次) 教育制度論 2単位

【専門基礎領域】

(2年次) 養護概説 2単位

【教職に関する科目】

(1年次) 教職概論 2単位、学校保健 2単位

(2年次) 特別支援教育概論 1単位、教育課程・方法論 2単位、
教育相談の理論と方法 2単位、学校体験活動 1単位

3年次

【教職に関する科目】

健康相談活動 2単位、道徳・特別活動・総合的な学習の時間 2単位、
生徒指導の理論と方法 1単位

4年次

【教職に関する科目】

養護実習事前事後指導 1単位、養護実習Ⅰ 1単位、養護実習Ⅱ 3単位、
教職実践演習（養護教諭） 2単位

IV 教職課程

2. 養護教諭 1 種免許 状の取得に関する 履修の流れ

- 1 年次 養護教諭 1 種免許状取得科目の履修開始
2 年次 3 年次以降の履修者の決定
3 年次 実習希望校の決定
4 年次 養護実習事前事後指導、養護実習 I・II、教職実践演習（養護教諭）の履修

* 養護実習 I・II の履修には、別途実習費（15,000 円程度）が必要となります。

* 養護実習 I・II の履修には、以下に掲げる科目を修得していることが前提となります。

(P. 42 「養護教諭 1 種免許状の取得に必要な科目」参照)

- ・教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 8 単位以上
- ・養護に関する科目（小児看護学実習、精神看護学実習を除く） 31 単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目 11 単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目 7 単位
- ・大学が独自に設定する科目 1 単位

* 必修科目の単位未修得等により在学期間が 4 年を超えること（卒業延期）が決まった学生は、原則として、それ以降、養護教諭課程の履修を継続できません。

* 4 年次 9 月に養護実習 II（3 週間）が行われるため、養護教諭課程を履修する学生は、同時期に開講される「国際看護実習」「地域ケア連携演習」は履修できません（養護実習の日程が優先されます）。

* 2 年次以降、教職課程と保健師課程の両方の課程を選択することはできません。

3. 養護教諭 2 種免許 状の取得に必要な 科目

養護教諭 2 種免許状は、以下の科目を選択履修した上で、保健師の資格を取得した後、教育委員会に申請することにより取得できます。

【教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目】

〔日本国憲法〕 日本国憲法 2 単位

〔体育〕 スポーツ I・スポーツ II・健康スポーツ実践・健康スポーツ論
の 4 科目より 2 科目 2 単位以上

〔外国語コミュニケーション〕 英語 I・英語 II 2 単位

〔情報機器の操作〕 情報処理 A・情報処理 B 2 単位

※ 必修科目ではありませんが、養護教諭 2 種免許取得を希望する学生は「学校保健」（1 年次）を履修してください。

IV 教職課程

□養護教諭1種免許状の取得に必要な科目

| 免許法施行規則に定める 科目区分 | 単位数 | 左記に対応する 開設授業科目 | 単位数 | 履修セメスター | | | | | | | | 備考 | | | |
|--|------------------------------------|---------------------|------------|---------|----|-----|---|-----|---|-----|---|----|---------|----------------------------------|----------|
| | | | | 必須 | 選択 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | | 4年次 | | |
| | | | | | | 春 | 秋 | 春 | 秋 | 春 | 秋 | | 春 | 秋 | |
| 第教 66 育 条職 の員 6 免 に許 定法 め施 る行 科規 目則 | 2 | 日本国憲法 | 2 | | | ○ | | △ | | | | | | 2 単位を修得 | |
| | 2 | スポーツ I | 1 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | | | 左記 4 科目か ら 2 科目 2 単 位以上を修得 | |
| | | スポーツ II | 1 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | | | | |
| | | 健康スポーツ論 | 1 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | | | | |
| | | 健康スポーツ実践 | 1 | ○ | ○ | △ | △ | | | | | | | | |
| | 2 | 英語 I | 1 | | ○ | | △ | | | | | | | 2 単位を修得 | |
| | | 英語 II | 1 | | | ○ | | △ | | | | | | | |
| | 2 | 情報処理 A | 1 | | ○ | ○ | △ | △ | | | | | | 2 単位を修得 | |
| | | 情報処理 B | 1 | | ○ | ○ | △ | △ | | | | | | | |
| | 養護に 関する 科目 | 4 | 疫学 | 2 | | | | | | ○ | | | | | 35 単位を修得 |
| 保健医療行政論 | | | 2 | | | | | ○ | | | | | | | |
| 2 | | 学校保健 | 2 | | | ○ | | | | | | | | | |
| 2 | | 養護概説 | 2 | | | | ○ | | | | | | | | |
| 2 | | 健康相談活動の理論・健康相談活動の方法 | 2 | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 栄養学（食品学を含む。） | 2 | 臨床栄養 | 1 | | | | | ○ | | | | | |
| 2 | | 解剖学・生理学 | 代謝・栄養 | 1 | | | ○ | | | | | | | | |
| | | | 解剖学 I | 2 | | ○ | | | | | | | | | |
| | | | 解剖学 II | 1 | | | ○ | | | | | | | | |
| | | | 生理学 I | 2 | | ○ | | | | | | | | | |
| 2 | | 「微生物学、免疫学、薬理論学」 | 生理学 II | 1 | | | ○ | | | | | | | | |
| | | | 微生物・感染 | 1 | | | ○ | | | | | | | | |
| 2 | | 薬理・薬剤 | 薬理・薬剤 | 1 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | | 精神看護学概論 | 2 | | | | ○ | | | | | | | |
| 2 | | 精神看護援助論 II | 精神看護援助論 II | 1 | | | | | | ○ | | | | | |
| | | | 看護学原論 I | 2 | | ○ | | | | | | | | | |
| 10 | 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。） | 基礎看護技術 I | 1 | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 小児看護学概論 | 2 | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 小児看護援助論 II | 2 | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 在宅看護援助論 | 1 | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 小児看護学実習 | 2 | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| | | 精神看護学実習 | 2 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育原理 | 2 | | | ○ | | | | | | | | 11 単位を修得 | |
| | | 教職概論 | 2 | | | ○ | | | | | | | | | |
| | | 教育制度論 | 2 | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | 生涯発達心理学 | 2 | | | ○ | | | | | | | | | |
| | | 教育心理学 | 2 | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 特別支援教育概論 | 1 | | | | | ○ | | | | | | | |
| 6 | 道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 道徳・特別活動・総合的な学習の時間 | 2 | | | | | | ○ | | | | | 7 単位を修得 | |
| | | 教育課程・方法論 | 2 | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | 生徒指導の理論と方法 | 1 | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 教育相談の理論と方法 | 2 | | | | | | ○ | | | | | | |
| 7 | 教育実践に関する科目 | 養護実習事前事後指導 | 1 | | | | | | | | ○ | ○ | | 7 単位を修得 | |
| | | 養護実習 I | 1 | | | | | | | | ○ | | | | |
| | | 養護実習 II | 3 | | | | | | | | | ○ | | | |
| | | 教職実践演習（養護教諭） | 2 | | | | | | | | | | ○ | | |
| 7 | 大学が独自に設定する科目 | 1 | | | | ○ | | | | | | | 1 単位を修得 | | |

※授業科目の開講セメスター [○…履修可、△…時間割によっては履修可]

| 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー) | |
|---|---|
| (5)専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 | (6)看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。 |
| (7)地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。 | |
| 英語 I 英語 II 外国語 海外研修 ブラジル文化と言語 現代の国際社会 文化人類学 国際支援入門 地域ケア連携の基礎 地域実践アクティブラーニング I ボランティア論 ボランティア演習 大学間交流授業 | 英語 I 英語 II 中国語 国際支援アクティブラーニング I 国際支援アクティブラーニング II 地域実践アクティブラーニング II 英語 III (看護英語) 国際看護論 国際看護研修 |
| 共19-D7-1-看護基礎-1 共19-D7-1-看護基礎-2 共19-D7-1-看護基礎-3 共19-D7-1-看護基礎-4 共19-D7-1-看護基礎-5 共19-D7-1-看護基礎-6 共19-D7-1-看護基礎-7 共19-D7-1-看護基礎-8 共19-D7-1-看護基礎-9 共19-D7-1-看護基礎-10 共19-D7-1-看護基礎-11 共19-D7-1-看護基礎-12 共19-D7-1-看護基礎-13 | 共19-D7-2-看護基礎-1 共19-D7-2-看護基礎-2 共19-D7-2-看護基礎-3 共19-D7-2-看護基礎-4 共19-D7-2-看護基礎-5 N19-D7-2-看護基礎-1 N19-D7-2-専門-1 N19-D7-2-専門-2 |
| 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護技術論演習 | 看護倫理 看護管理理論 I 看護管理理論 II 災害看護論 公衆衛生看護管理理論 公衆衛生看護学実習 |
| N19-D5-3-4-専門-1 N19-D5-3-4-専門-2 N19-D5-3-4-専門-3 N19-D5-3-4-専門-4 N19-D5-3-4-専門-5 N19-D5-3-4-専門-6 | N19-D6-3-4-専門-1 N19-D6-3-4-専門-2 N19-D6-3-4-専門-3 N19-D6-3-4-専門-4 N19-D6-3-4-専門-5 N19-D6-3-4-専門-6 |
| 成人看護援助論演習 急性看護学実習 慢性看護学実習 老年看護学実習 母性看護学実習 小児看護学実習 精神看護学実習 在宅看護学実習 統合実習 公衆衛生看護活動論 公衆衛生看護活動論演習 公衆衛生看護総合演習 | N19-D5-3-4-専門-1 N19-D5-3-4-専門-2 N19-D5-3-4-専門-3 N19-D5-3-4-専門-4 N19-D5-3-4-専門-5 N19-D5-3-4-専門-6 N19-D5-3-4-専門-7 N19-D5-3-4-専門-8 N19-D5-3-4-専門-9 N19-D5-3-4-専門-10 N19-D5-3-4-専門-11 N19-D5-3-4-専門-12 |
| 1年次 | 2年次 |
| 3・4年次 | |